

日本統合医療学会 北海道支部 看護部会 第2回勉強会

テーマ:健康の捉え方

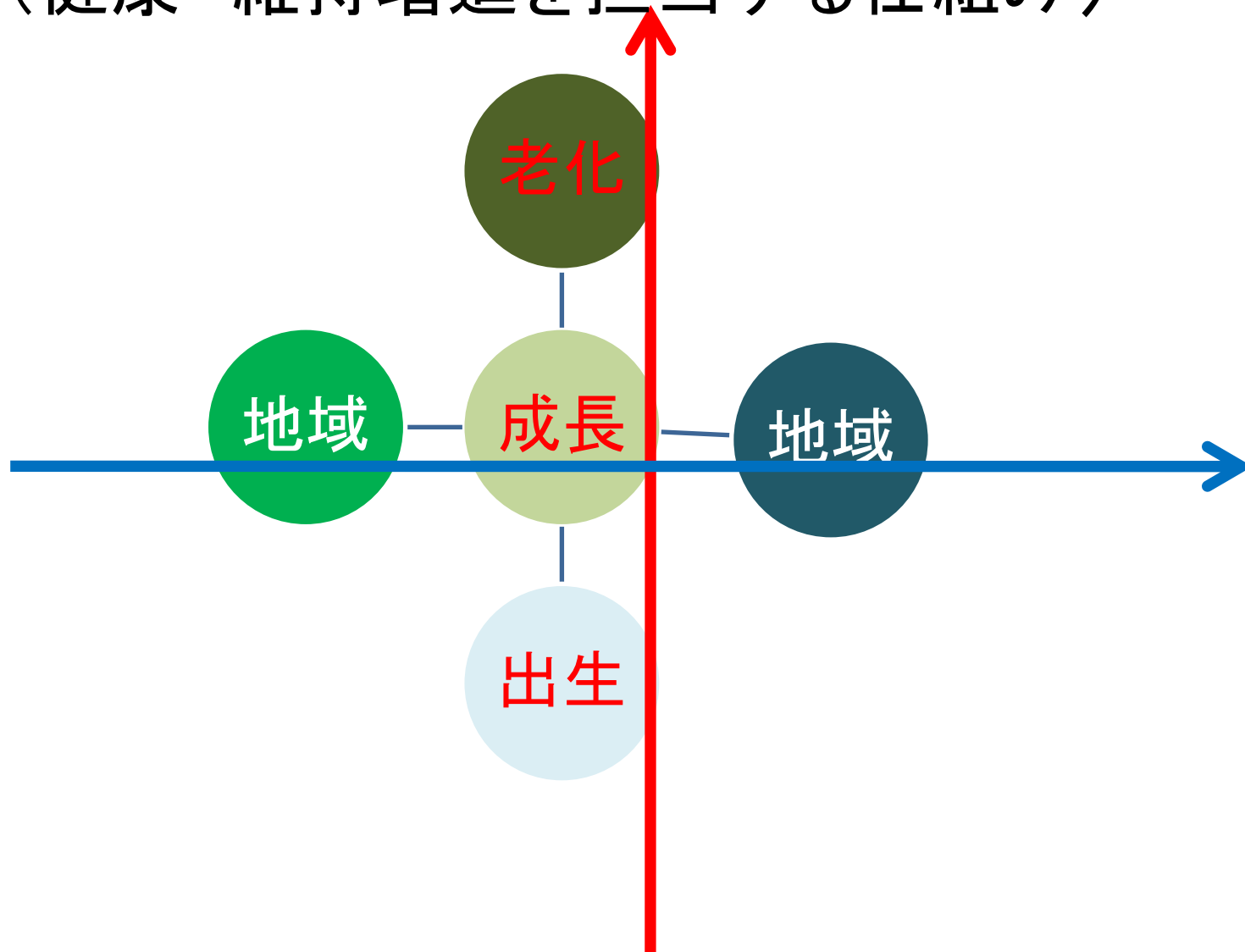
2010年9月18日(土)13:30-15:30
札幌医科大学保健医療学部会議室

本日の進め方

- 3～4人で、学んだこと、わかったこと、わからなかったことを、話し合う
- 全体で、話し合う
- まとめの講義を行う
- 共通理解・共通言語を促進する

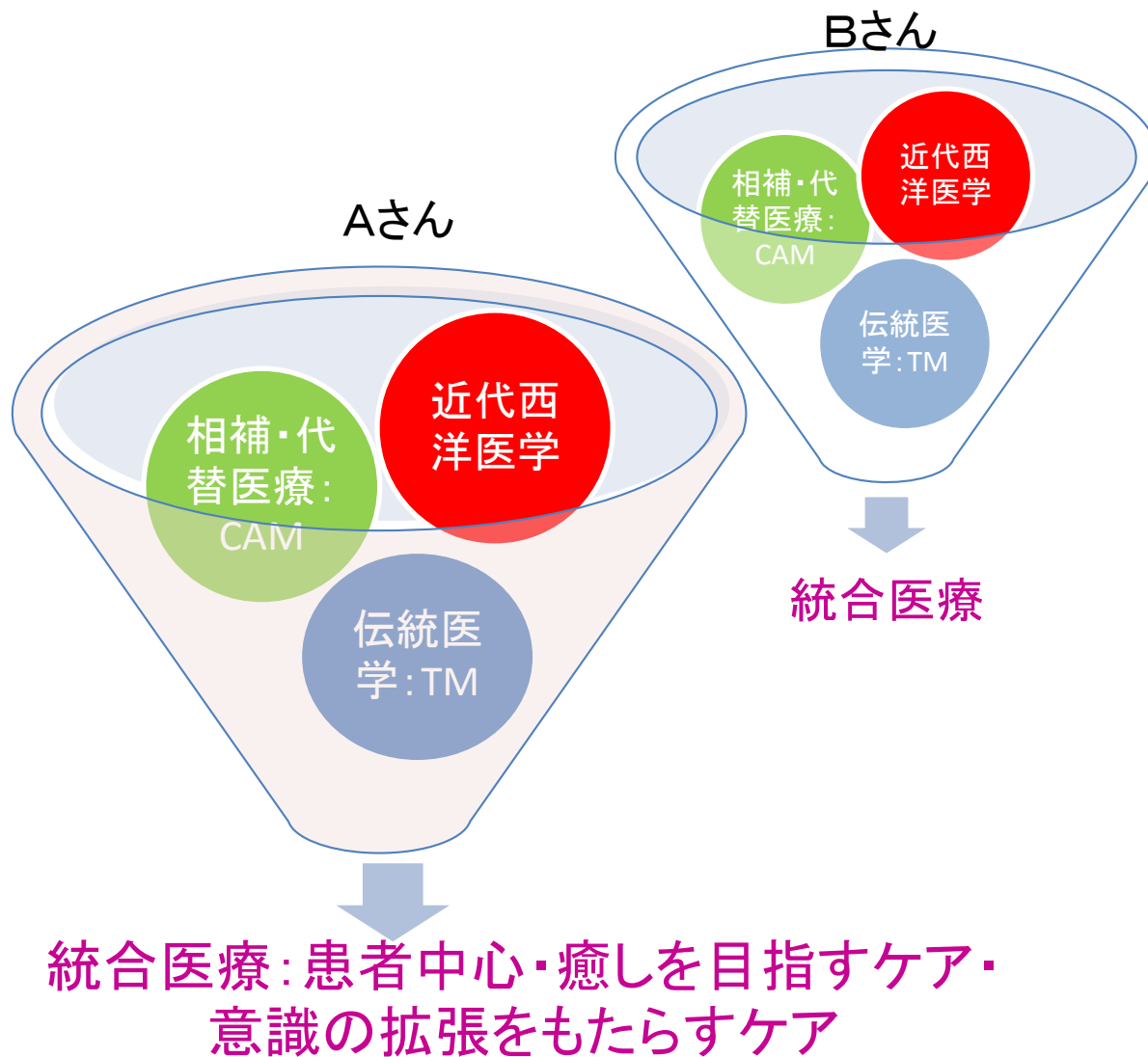
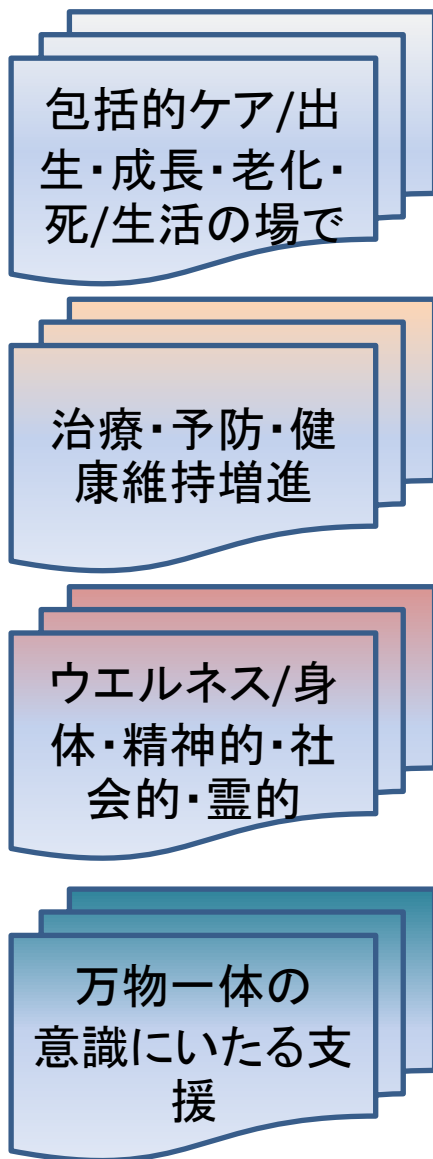
包括的なプライマリ・ケアシステム

(健康 維持増進を担当する仕組み)

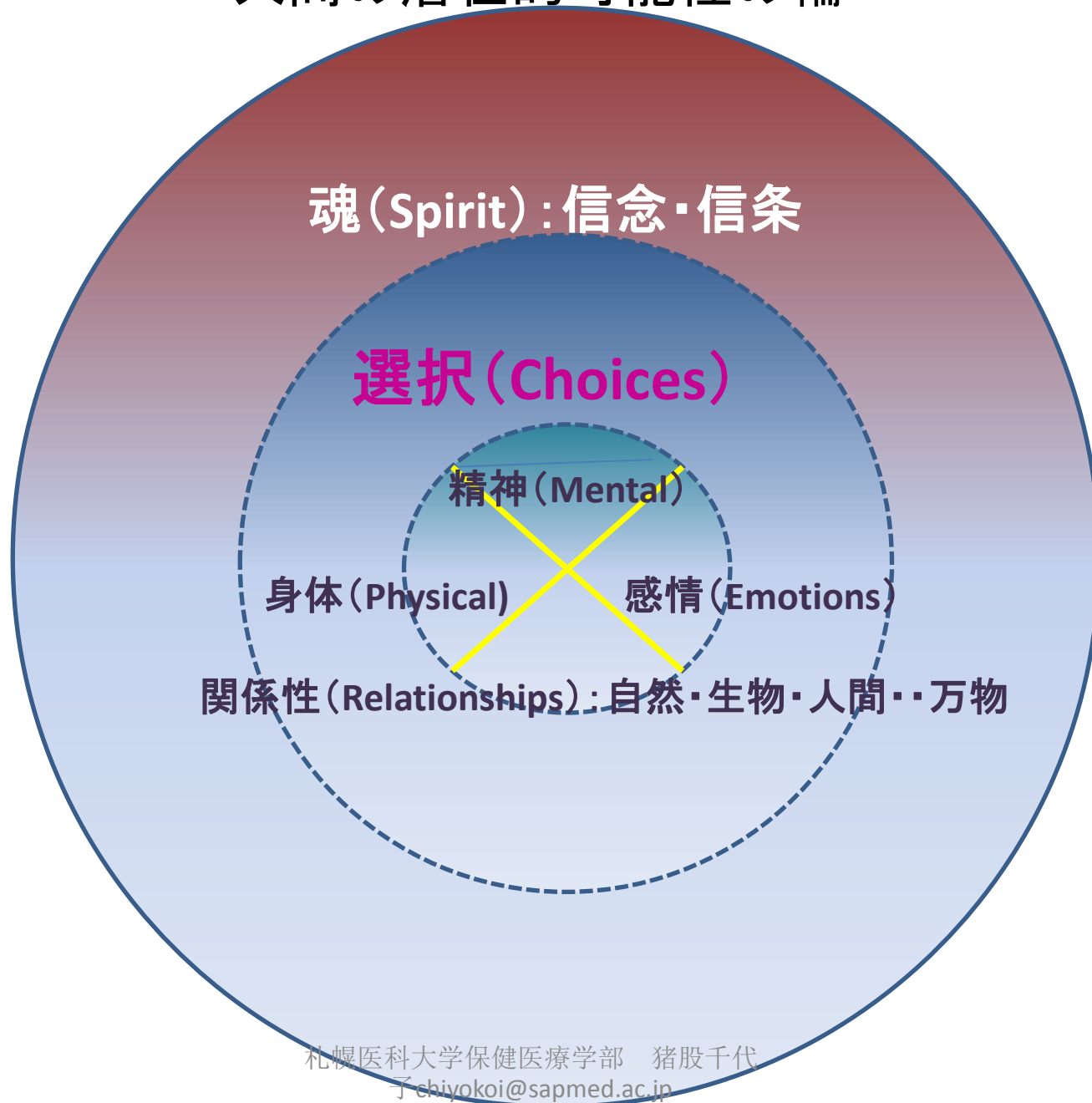


統合医療の定義

渥美和彦「統合医療基礎と臨床 p14」を参考に作成



人間の潜在的可能性の輪

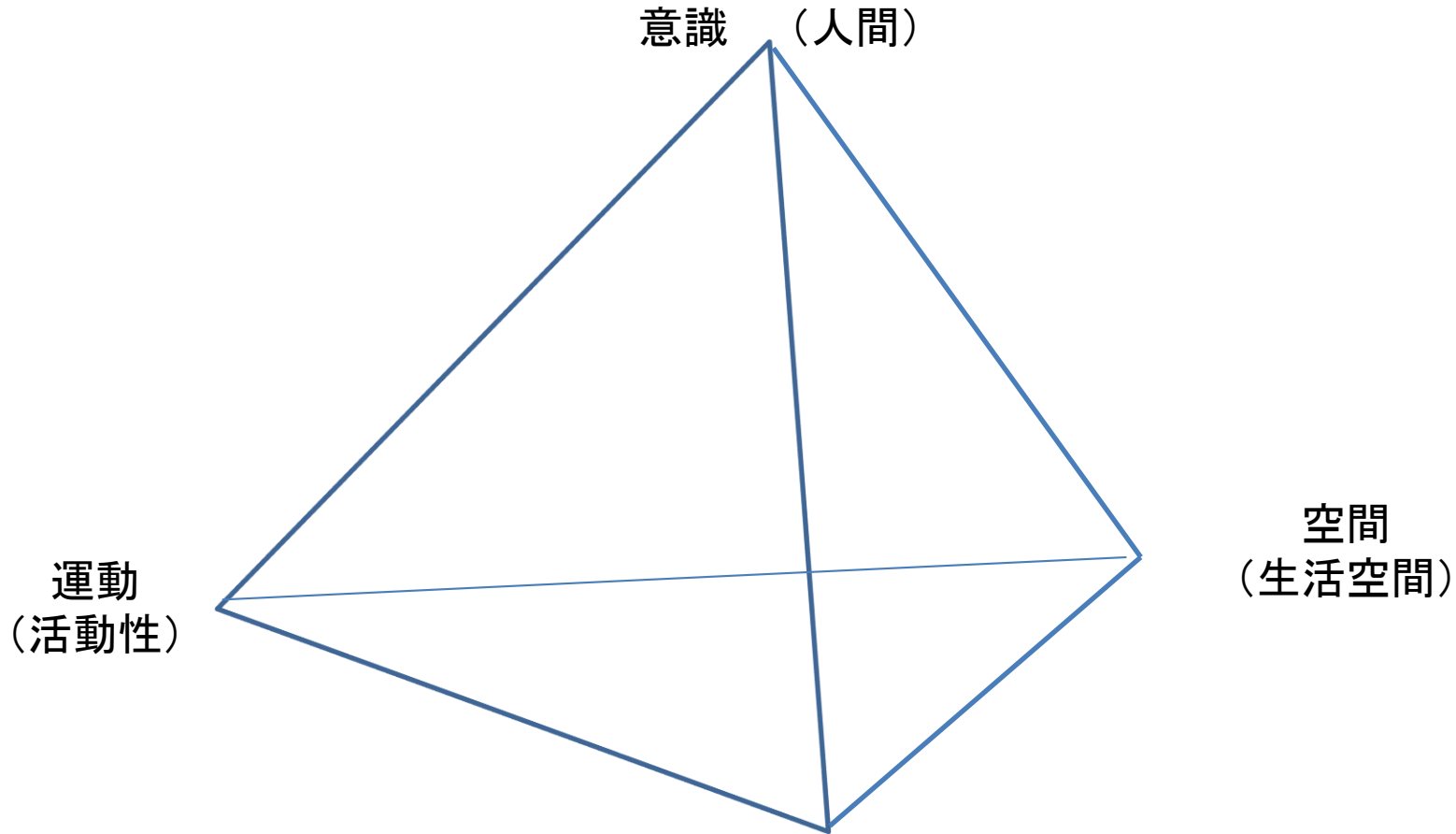


統合医療を構成しているもの

- 関係性を重視するケア
- パートナーシップ
- 全人的な視点
- 癒しを目指すケア
- 自己責任の重要性
- 予防
- 従来の西洋医学実践と、TM・CAMなどの新しいヘルスケア実践の融合

ニューマンの健康のモデル

健康は意識の拡張である



意識: 環境環境 (空間・時間・運動) と相互作用を持つ能力

意識 (consciousness)

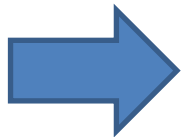
- 環境との情報交流能力
- 感じる・察知する・共鳴する・呼応する・響きあう

人間

人間、患者、クライアント、個人、パターン

- 意識している存在
- パターン: その人の全体を描き出す情報
(開示された秩序 / 隠された秩序)

体温、血圧、コミュニケーション



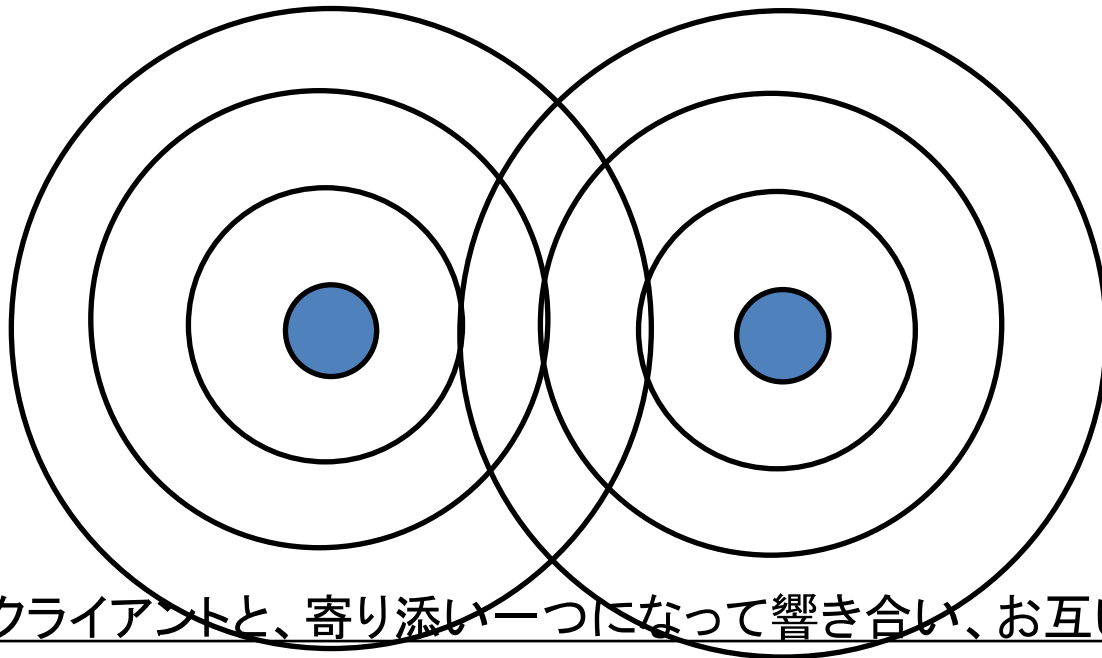
その人、全体から醸し出される雰囲気・お人柄・第1印象

以下のパターンなどから伝わるもの: 運動・活動性、感情、行動、
新陳代謝、コミュニケーション、人間関係、理解力、感性、価値観

看護

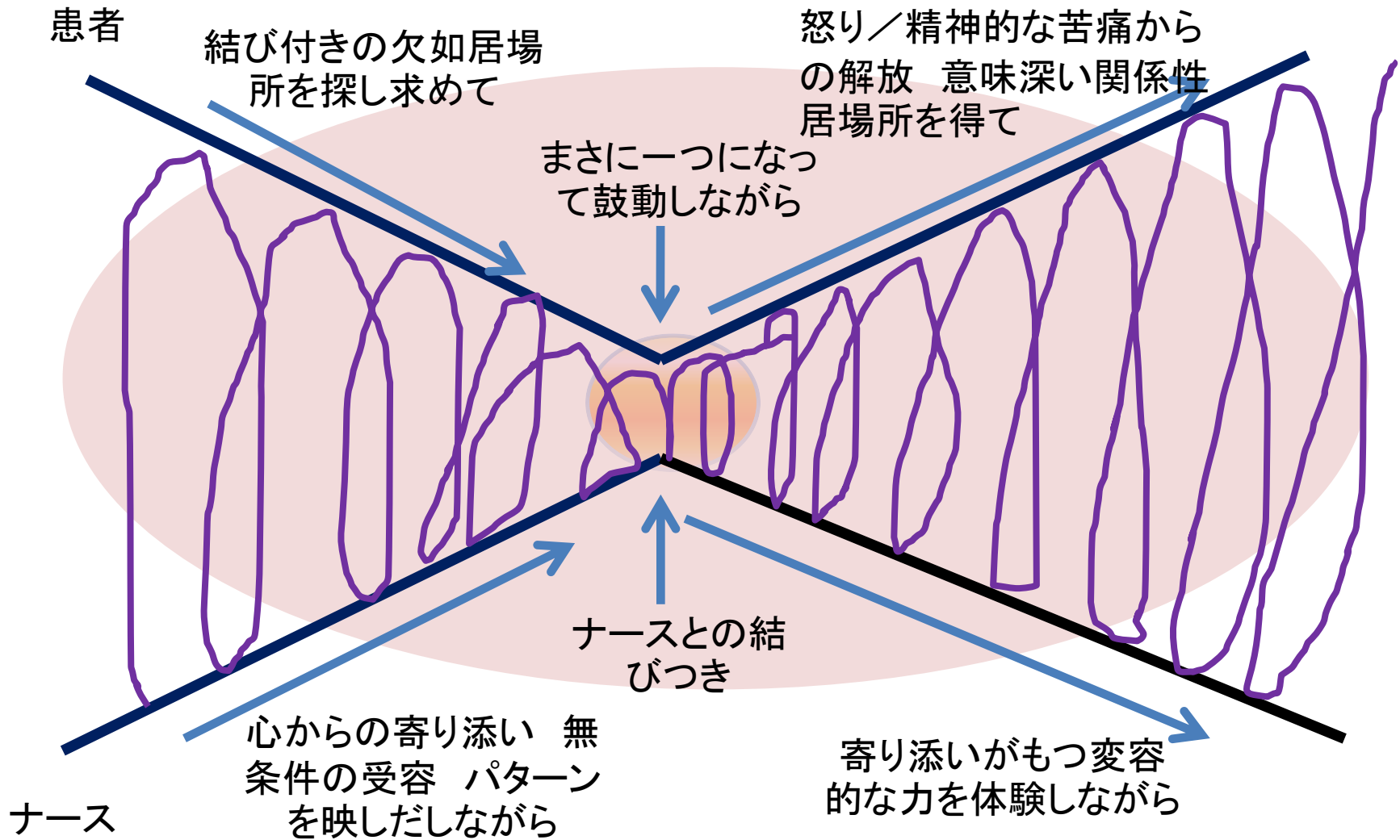
介入

- **パターン認識**: 患者が自分自身のパターンを認識することを推進すること
(介入なき状態):
ホログラム的介入モデル: 相互作用のパターン; 干渉パターン
- NSは患者とともに行動しながら、自らのパターンも認識しつつ、共感的に彼らの体験に入っていくパートナーとしての存在



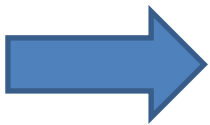
- ナースがクライアントと、寄り添い一つになって響き合い、お互いに変容する
- 納得・腑に落ちる・・・悟りが訪れるだろう

ナースと患者が近づき合い、パターン認識、洞察、そして変容の過程を経て、やがて離れていくさま P43



変容を生み出す寄り添い (transforming presence)

- クライエントに変容が生み出され、また寄り添うナースにも変容が生まれるような寄り添い
- 気遣って深く関心を注ぎ (caring)、クライエントを理解しよう (understanding) と、柔軟な心を持って、しかし心を込めて寄り添う



- 他者との違いを知ることで、自己の特性が浮き出る

運動、時間、空間の諸概念の関連

1. 運動は意識の反映である
2. 時間は意識のインデックスである
3. 時間は運動のひとつの作用である
4. 運動は時間と空間が現実のものとなるところの手段である
5. 時間と空間は相補的な関係にある



事例を通して理解を深められると思います

1. 運動は意識の反映である

- おしゃべり
- 食事
- 胃の働き
- 血圧変動
- 細胞レベルの変化まで

2. 時間は意識のインデックス（物差し）である

- 過去・現在・未来
- 客観的な時間
- 主観的な時間:一人一人が感じる時間の流れ
- $\text{知覚された持続時間} = \text{気づき(過ぎていると感知された時間の量)} / \text{内容(客観的な時間)}$
- $\text{意識指標} = \text{主観時間(経過されたと判断された秒時)} / \text{客観時間(実際の時計時間)}$
- 比率が高いほど個人が寄り高いレベルの意識で機能していることを示している

3. 時間は運動の一つの作用である

- ゆっくり歩けば、過ぎたと感じた時間(主観時間)は少なくなる

4. 運動は時間と空間が現実のものとなるところの手段である

- 運動がその人に変化をもたらし、自分を取り囲む世界を現実のものとする

5. 時間と空間は相補的な関係にある

- より高い移動性のある人は、拡大された空間と区切られた時間の世界に住んでいる。一方で身動きできないとか、社会的な制約などによってその人の生活空間が狭まると、その人の時間は増える

事例

- 常盤・鈴木の文献P157
 1. 患者が自分のパターンを認識できない例
 2. クリーンルームで不穏状態になった例
 3. 皆様から

健康＝生成発展していく意識のパターン＝意識の進化(高いレベルの意識へと向かっていく)

- 寄り添う・関心を持って存在する:ホログラム的介入;それだけで相互作用しあっている
- 臨床の現象をアセスメントする手立てとしてパターン認識を促す
- 時間・空間・運動でパターン理解が進む(洞察＝正反合一の弁証法的過程)
- 意識の拡張とは、考え方を洞察・進化させることで、意識・行動・言動・人間関係・コミュニケーション・生活すべてに変容をもたらす

看護理論家とその業績

第31章 マーガレットA・ニューマン

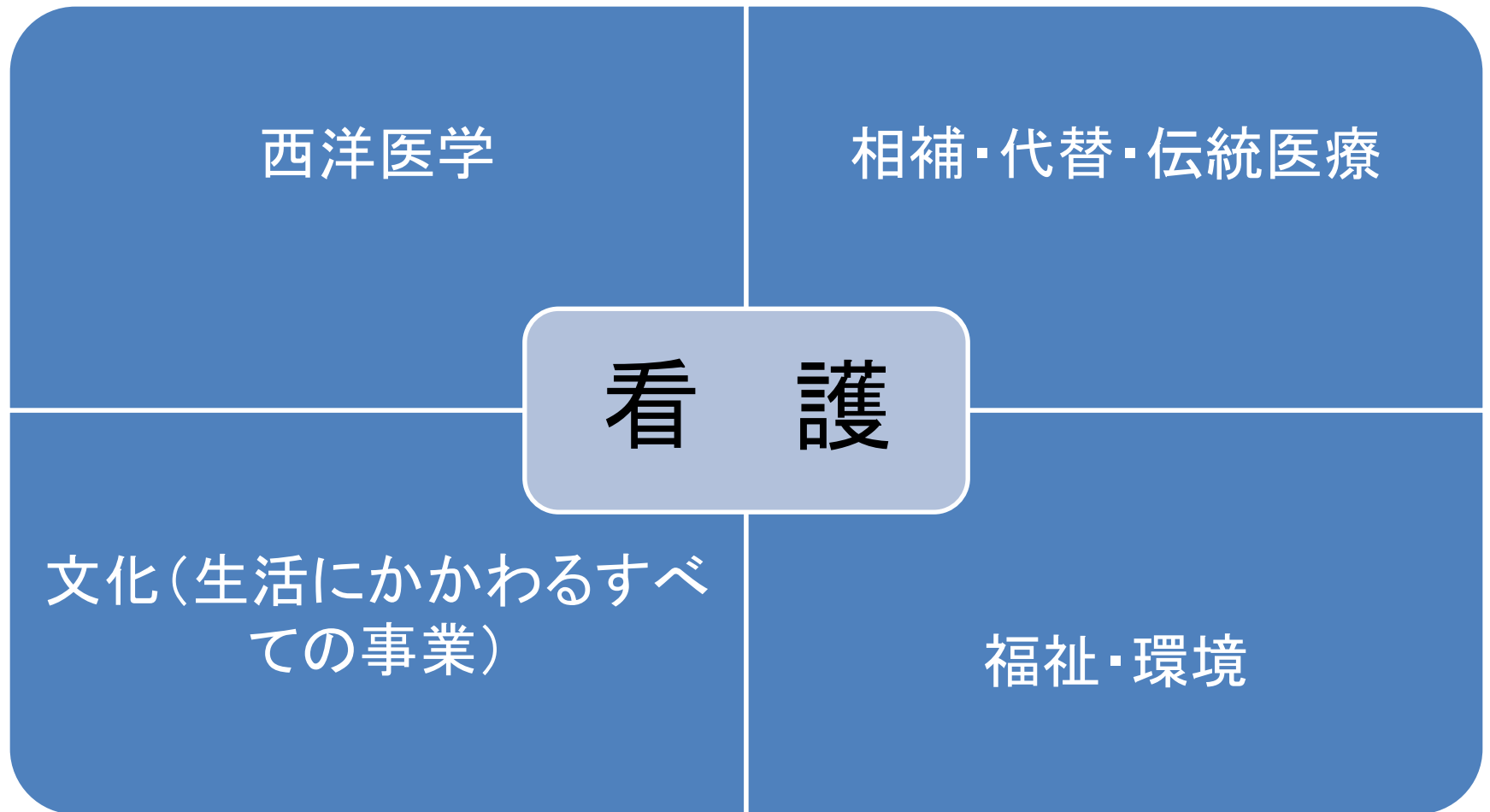
健康のモデル

P603

- 看護はヘルスケアが継続して発展していくための重要な資源になりうる。ヘルスケア産業の焦点が変わるところに位置しており、だからこそ「看護はシステムのなかにあって、そのシステムを新しくより高い機能の秩序へと押し上げるうねりを引きこす立場にある」

ヘルスケア産業

看護：より高い機能の秩序へと押し上げるうねりを引きこす



看護：人間の健康体験におけるケアリングの探求 (養生法への支援)

健康体験における看護師の役割

- クライアントが自分自身のパターンを認識するのを助ける(可能性を秘めた行為): 自分の生き方を知る
- 変化していけるように道を拓いていく行動の可能性を照らし出す(変容への道): さらに豊かな生き方を探る
- クライアントを取り巻く、家族・地域との調整役
(目線あわせ): 関わりあって、響き合いながら生きる

変容を生み出すナースの寄り添い 看護が創りだすちがひ

マーガレット・ニューマン 医学書院P113

- 今、世界が必要としていることは、結びつきである。複合文化的で、複合局面的なグローバルなネットワークが必要である。それは個別的で、局面的なパートナーシップに中心があり、常に転換し、変化し、新しい見方に拓かれている。看護はそのようなネットワークを促進する位置にある。私たちが伝統的に受け継いできたケアリング、養育、そして意識の最も高次のレベルとして愛を理解することによって、看護が、共同、コラボレーション、そしてパートナーシップの一つとして、ヘルスケアシステムで必要としている再構築のための結びの輪になることが可能である。
- 看護の使命—一人間の健康体験そのものへのケアリング—に潜在している隠された秩序（調和・安寧を価値とする精神）は、変容を生み出すパターンである。そのパターンが開示する過程で、私たちは、その変容を生み出す寄り添いとして存在する。

参考文献

1. アン・マリナー・トメイ, マーサ・レイラ・アリグッド 監訳 都留伸子 看護理論家とその業績第3版 マーガレットA.ニューマン健康のモデル 591-607 医学書院
2. 編集 筒井真優美 看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 マーガレット・ニューマン パターンで表現する健康の理論 171-181 南江堂
3. 編著 黒田裕子 やさしく学ぶ看護理論 マーガレット・A・ニューマン 149-163 日総研
4. 編著 黒田裕子 理論を生かした看護ケア 知的な看護介入をめざして 86-105 発行・照林社 発売・小学館
5. 中村よしえ他 一般病棟における終末期患者の家族のニーズ～看取りを終えた家族の語りから～ 第40回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ
6. 鈴木美千代他 がん終末期における絵本読み語りによる患者家族の感情の表出を促す援助 第39回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ
7. 矢野裕美子他 一般病棟における「その人らしい最期」に寄り添うケア -Margaret Newman看護論を用いての振り返り 第39回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ
8. 森田敏子 看護における癒し～患者の心に寄り添う実践知～ 金芳堂
9. マーガレット・ニューマン 変容を生みだすナースの寄り添い 看護が創りだすちがい 医学書院